

梅雨

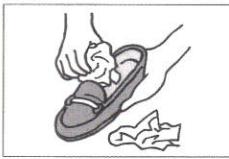
ジメジメした
梅雨の季節!!
6月は特に玄関に
注意してみて下さい!

梅雨の時期は暑くジメジメ…カビが繁殖しやすい季節です。
家の匂いが気になる場所はトイレ、キッチン、玄関、居間、寝室の順。
中でもドアを開けた瞬間の玄関のにおいは、家のにおいとして強く印象に残る
のでクリーンな香りにしておきたいですね。玄関の気になるにおいは靴の臭い。
雨の日の靴からは臭いが発生しやすいので要注意!
(“くさい家”と思われないように対策をしましょう。)

玄関



■下駄箱はドライヤーで乾燥。
下駄箱は拭き掃除をして、ホコリ、泥、靴墨などカビの栄養源をとることが大切。水拭きの後、すぐに扉を閉めると湿気がこもるので、扉は開放して自然乾燥させ、特に乾きにくい四隅にはドライヤーをかけておきましょう。



■ぬれた靴は新聞紙で除湿。
雨などにぬれた靴は、乾いた布で表面を拭き、ぞうきんで靴底の水分をとってから、新聞紙を丸めて靴の中に詰めます。新聞紙をつままで詰めるためには、小さめの短冊形に切ると詰めやすくなります。

また、キッチンからは油やごみの臭い、居間・寝室からは布製品についた複合臭が気になります。居間はお客様が来る場合も有り、居間に併設してキッチンがある家庭がほとんど。この対策も忘れてはいけませんね。



安らぎと時の流れを楽しむ癒しの空間



弊社1階ギャラリーにモダンダイニングがオープンしました。

家族で過ごす一時を大切に、より充実した日々を想像した空間です。

毎日の生活に潤いを与え、ゆったり、のんびりした日々を過ごしてみませんか。
ぜひ一度、お気軽にお立ち寄りください。

○お問い合わせは

〒767-0001 香川県三豊市高瀬町上高瀬4-1

Tel 0875-74-3881 FAX 0875-74-3882

<http://www.tsuoya.jp/>

メールアドレス : info@tsuoya.jp

OPEN



家事の効率上げる収納法は?

家事効率を考えて収納すると
きは、いかに多くのものを収納できるかではなく、ものの使用頻度
と突発性要素としてグループ分け
をするといい。

④頻繁に使うもの⑤たまに使う
もの・突発的に使う必要があるので
の⑥たまに使うもの・使つタイミング
を予期できるもの⑦ほとんど
使つことがないもの
⑧はしゃがまなければならない
低い位置や、台に乗る必要のある
高い位置には収納しない。体勢を

暮らしマネジメント

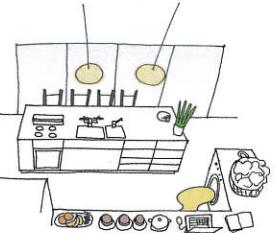
変身する2つの動きで目的のもの
を取り出せる場所に収納をする。
⑨はある程度は取り出しやす
く、かつ忘れない場所に収納。突
発性にも幅があるが、飲み物をこ
ぼしてしまったときに使うそうき
ぐや、喪服などものにある。

⑩は正月におせち料理を入れる
お重やクリスマスマツリーなど。こ
れはある程度不便な場所に収納さ

使用頻度などに応じ4分類

⑪は本来であれば収納せずに魔
術ひとつでも⑫の意識して分類し収納していく。そうすることにより家事の効率は一気によ
くなる。しかしこれを表現させるには余分な荷物を持たないことが重要。背の届かない収納場所は使
わないくらいの気持ちで物を減らすと意外と簡単に分類ができる家事の効率もアップする。

(家事アドバイザー 矢野 きの)



台に乗る必要がある、背の届かない
場所は使わないのである。気持ちで
乗ることが望ましいが思い出の
品などであればしかたない。

木の香

収納講座

7月6日(日)

※6/25[水]迄

要約

時間 13:30~

定員 10名様

講習費 1000円

講師 片づけ＆お掃除アドバイザー
みちひさ子様

大好評につき
第二回目の
開催です！

今回は防災についてのセミナーです！！収納と防災！？なんだか関係ない気がするかもしれません、非常にこそ整理収納されていないと、正しい判断と行動ができません。そこで、必要な量を適切な場所に収納し、緊急時でも冷静な行動ができる、目からウロコの収納術を大公開します！！

一級建築士事務所香川県知事登録第1325号
香川県知事許可(特-25)第1181号

木曽・東濃檜造りの家
壱谷建設株式会社



日本の四季にあった 快適な住空間を得るには！？

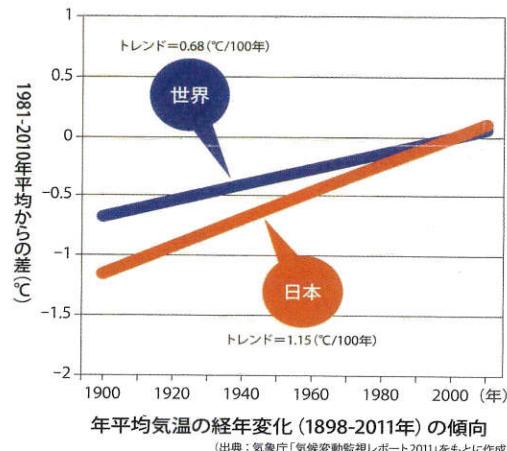
住宅を建築する上で、省エネや断熱という言葉は、どこに行ってもよく耳にすると思いますが、具体的に私たちの生活の現状と、これからクリアしていく課題について、知っておきましょう！！

省エネルギー性能の向上へ

地球温暖化などにより住宅の低炭素化推進が求められています

日本の平均気温は上昇の一途

世界の年平均気温は100年あたり 0.68°C の割合で上昇。日本は 1.15°C の割合で上昇し、特に異常高温日が増え、熱帯夜や猛暑日が増加。その分冷房使用が増し、温暖化をさらに進めています。そのため、住宅での低炭素化、つまり省エネルギー化が課題となっています。



大震災を機に電力供給が低下し、使えるエネルギーが制約されています。このことからも住宅での省エネルギー化が必要となっています。

家庭でのエネルギー消費は減少していません

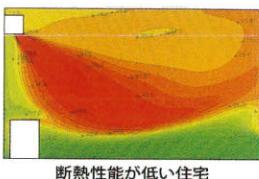
住宅・建築分野はわが国のエネルギー消費の約3割も占めています。加えて、世帯数・床面積の増加やライフスタイルの変化で、エネルギー消費は増えています。

断熱の重要性

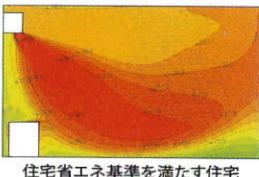
断熱のメリットは省エネルギー化だけではありません

住宅内に生じる温度むらがもたらす問題

住宅の省エネルギー化に欠かせない技術が断熱ですが、断熱化には暖房室内の温度差および暖房室とトイレ・浴室などの非暖房室との温度差を少なくできるメリットも。これが低い温度でも快適で温度むらがない住空間を実現し、部屋間の急激な温度変化によるヒートショックの予防にもなります。



断熱性能が低い住宅



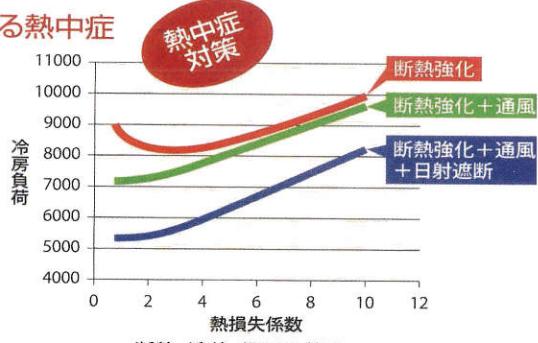
住宅省エネ基準を満たす住宅

エアコンで暖房している空間の温度比較

(出典: 2020年を見据えた住宅の高断熱化技術開発委員会(HEAT20)報告会資料)

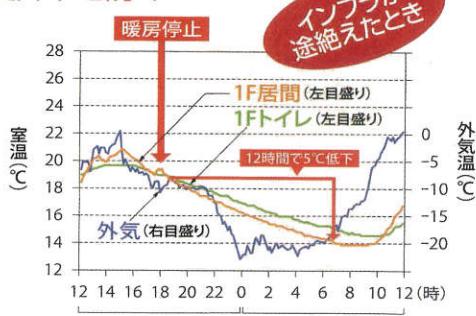
近年増加している熱中症

室内での熱中症が増加。一方、省エネのためエアコンの温度を下げすぎないようにとの声も。これに対して、断熱化と適切な通風、日射遮蔽は室温を低下させます。



適切な断熱化はエネルギーインフラが途絶えたとき温度降下を防ぐ

災害や事故等で冬季にエネルギーインフラが途絶えると、暖房設備が使えません。断熱化してあれば、温度降下をある程度防げます。



非暖房時の温度降下

$\rightarrow 0.4 \sim 0.7 [\text{deg}^{\circ}\text{C}/\text{h}]$

暖房停止後の温度降下は外気にくらべゆるやか

厳寒期の平成11年基準対応住宅の実測結果

(出典: 北方建築総合研究所測定結果より)

年金生活時の光熱費の削減

年金は減少傾向にあり、光熱費が高齢者の生活を圧迫していますが、断熱化してあれば、光熱費を少なくすることができます。

収入低下に対して

※つばや流が必要ない方は、お手数ですが弊社までご連絡下さい。